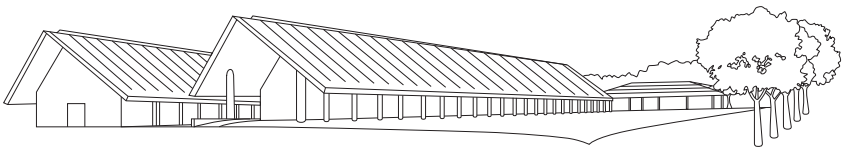
2026summer

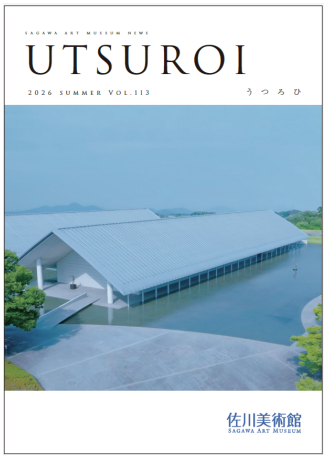
news release

佐川美術館季刊誌

うつろひ VOL.113

リリースのおしらせ





佐川美術館友の会会員の方を対象に
年４回季刊誌を発行しており、
展覧会のみどころや耳より情報をお知らせしています。
7/1 発行の 113 号では、
リニューアルオープン記念の『 千住博 』展 を特集します。
耳寄り情報満載のその他コーナーもお見逃しなく！

目次

ごあいさつ	PICK UP	1 - 2
企画展　千住博　水の調べ、水の響き	PICK UP	3 - 4
企画展　魔法の美術館Ⅳ	……	5
ワークショップ　こども絵画コンクール	……	6
佐川美術館コレクション展	……	7 - 8
コレクション展　樂直入　創造の軌跡	……	9
教えてセンパイ！ / 周辺おすすめグルメ	……	10
クリタさんが行く！ SHIGART/ 深#建築 LABO	……	11 - 12
【告知】イベント / 次回展	……	13
お知らせ / アンケート	……	裏表紙

次のページで
ちょっとだけ紹介！

年会費 3,000 円
でオトク！

友の会会員
募集中

詳しくは
コチラ

友の会会員の方には、季刊誌を
ご自宅までお届けします。
その他にも特典がいろいろ！
詳しくは美術館公式 HP 内、
友の会ページをご覧ください。

Join the Friends of the Museum

リニューアルオープンまでの道のり

2019.5
改修工事に向けた協議を開始

プロジェクトチーム内で何十回もの協議を重ね、今後の当館のあるべき姿を掘り下げていきました。

2022
着工予定の延期

新型コロナウイルスの流行や世界的な半導体不足の影響により予定が1年後ろ倒しに。予想外の足踏みとなりましたが、この時間が計画をより強固なものにしました。

2023.9
改修工事着工

いよいよ工事がスタート。まずは館の運営に影響の出ない多目的室、収蔵庫の新設から着手。実は開館中から、リニューアルに向けた準備が始まっていました。

2025.9.29
全館休館

既存館の設備入れ替えや展示室の拡張など、いよいよ工事もラストスパートへ。

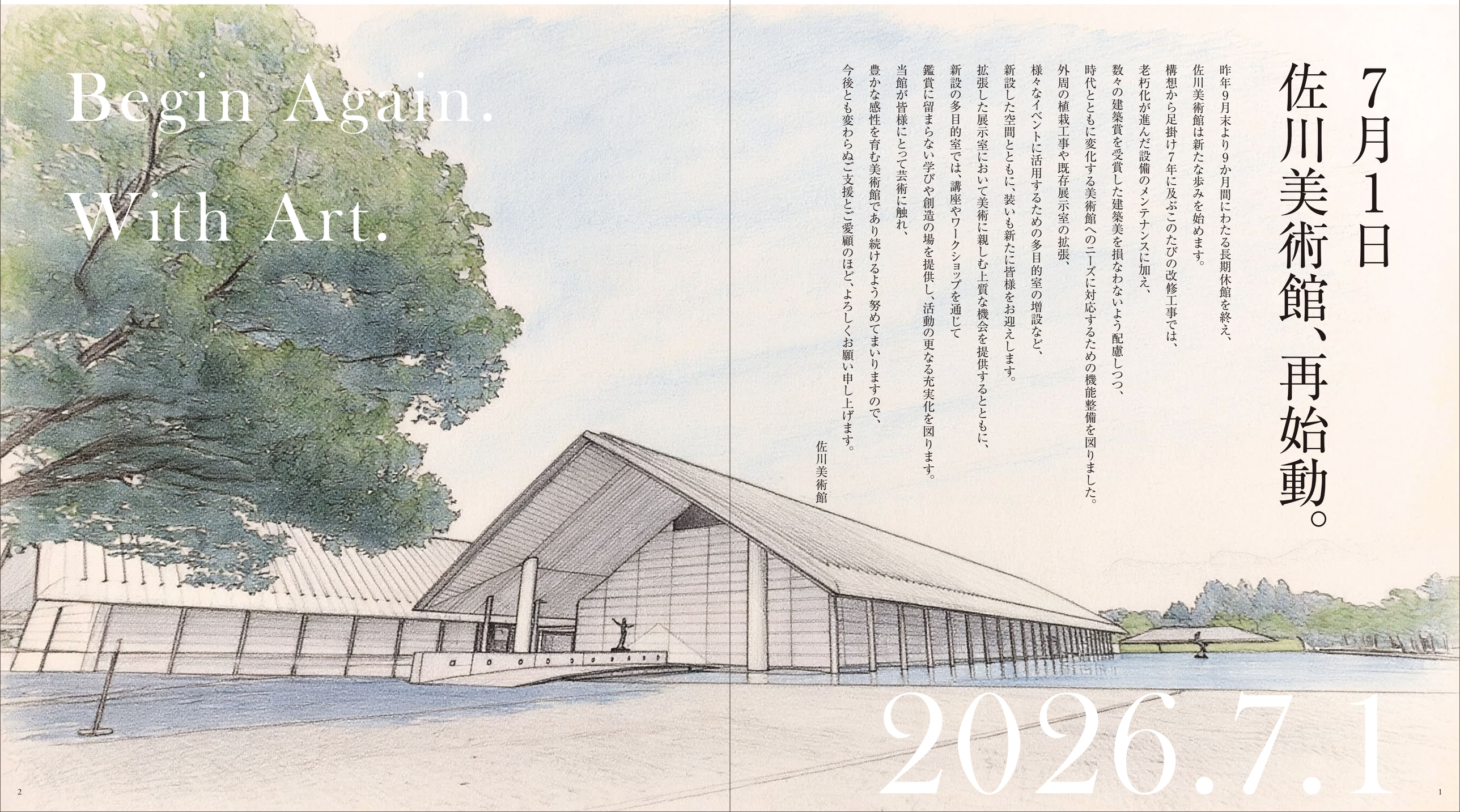
2026.7.1
リニューアルオープン

構想から足掛け7年、ようやくこの日を迎えることができました。進化した佐川美術館のこれからに、ぜひご期待ください！

7月1日 佐川美術館、再始動。

昨年9月末より9か月間にわたる長期休館を終え、
佐川美術館は新たな歩みを始めます。
構想から足掛け7年に及ぶこのたびの改修工事では、
老朽化が進んだ設備のメンテナンスに加え、
数々の建築賞を受賞した建築美を損なわないよう配慮しつつ、
時代とともに変化する美術館へのニーズに対応するための機能整備を図りました。
外周の植栽工事や既存展示室の拡張、
様々なイベントに活用するための多目的室の増設など、
新設した空間とともに、装いも新たに皆様をお迎えします。
拡張した展示室において美術に親しむ上質な機会を提供するとともに、
新設の多目的室では、講座やワークショップを通じて
鑑賞に留まらない学びや創造の場を提供し、活動の更なる充実化を図ります。
当館が皆様にとって芸術に触れ、
豊かな感性を育む美術館であり続けるよう努めてまいりますので、
今後とも変わらぬご支援とご愛顧のほど、よろしくお願い申し上げます。

佐川美術館



日本画家・千住博が描き出す「水」の物語

日本のアートシーンを牽引し、世界的に高い評価を得ている日本画家・千住博。
千住は自然と向き合うことで、それらが持つ本質的な美しさを描き出してきました。
本展は「水」をテーマとして千住の代名詞といえる《ウォーターフォール》を中心に、多彩な水の表情をご紹介します。

水の物語Ⅰ　世界を彩る「滝」

《ウォーターフォール》シリーズは、千住が自然の本質を見つめることで、作為を捨てて水の流れを描き出した作品です。滝のリアリティを表現するため、筆を使わずに重力を利用して絵具を直接画面に垂らす独自の技法を用いました。

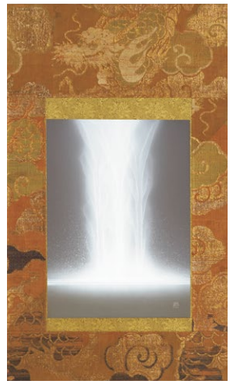
発表以降の《ウォーターフォール》シリーズはモノトーンを基調としていましたが、コロナ禍に発表された《ウォーターフォール・オン・カラーズ》では、色彩豊かな表現へと進化を遂げました。滝の内側から外をのぞくような視点で描かれた本シリーズでは、滝つぼの色合いは外の世界を彩るあらゆる色が混ざり合った結果であり、人間の多様性と創造性、そしてそれらの調和と共生を暗喩しています。

《ウォーターフォール・オン・カラーズ》
2022年

水の物語Ⅱ　伝統と革新の融合

日本画の伝統と現代美術の融合という独自の表現方法を確立した千住は、近年350～400年前の貴重な裂地（きれじ）を用いた掛軸作品を手掛けています。歴史と伝統が集約された古裂（こぎれ）と、革新的な表現の《ウォーターフォール》は一見対極にあるように思えますが、「歴史や既存の価値観を尊重してこそ、挑戦の意識が生まれて創造的な作品に繋がる」という千住の考えのもとにおいて深く結びついています。

下の作品に使用されている裂地には雲龍文様が施されています。龍は古来より雨や水を司る象徴とされ、作品の主題である滝と見事に呼応しています。展示室では裂地の文様にも目を向け、伝統と革新が織りなす調和をお楽しみください。



《ウォーターフォール（秋）》（部分）
2023年

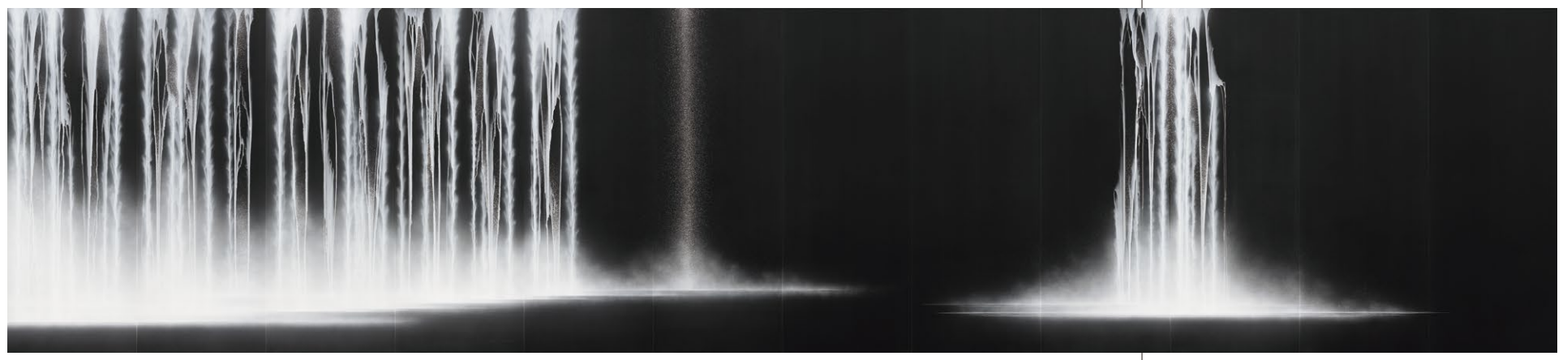
千住博略歴

1958年｜東京都生まれ。
1984年｜東京藝術大学大学院修士課程修了。修了制作は東京藝大の買上となる。
1995年｜第46回ヴェネツィア・ビエンナーレ国際美術展で東洋人として初めて名誉賞を受賞。
2002年｜第13回MOA岡田茂吉賞大賞を受賞。
2011年｜軽井沢千住博美術館開館。
2017年｜第4回イサム・ノグチ賞を受賞。
2022年｜日本芸術院会員に就任。

Information

リニューアルオープン記念展
千住 博
水の調べ、水の響き
2026年7月1日（水）～9月6日（日）

最新作の屏風を初公開！



《ウォーターフォール》2025年

縦2メートル、横8メートルの超大作の屏風。原点にして最新作のモノクロームな滝の世界をお見逃しなく。

学芸員のイチオシ作品「フラットウォーター」

今回の担当
栗田頌子

《ウォーターフォール》シリーズの先駆けともいえるのが、《フラットウォーター》シリーズです。描かれているのは、現在も噴火活動を続けるハワイ島・キラウエア火山から流れ出た溶岩が固まった情景です。千住が「この景色を描くために画家を志した」と語るように、エネルギーと生命力に満ちた作品です。画面には黒い溶岩と湧出した清らかな水が織りなすモノクロームの神秘的な世界が広がっており、自然の摂理という不変の真理を私たちに突きつけています。

本作は、何度も岩絵具を塗り重ねることで溶岩流の荒々しい質感を再現しています。この自然そのものを画面に表現しようとする試みは、後に《ウォーターフォール》シリーズで絵具を垂らして滝を再現したことに通じており、千住の代表作が誕生する原点を本作に見ることができます。

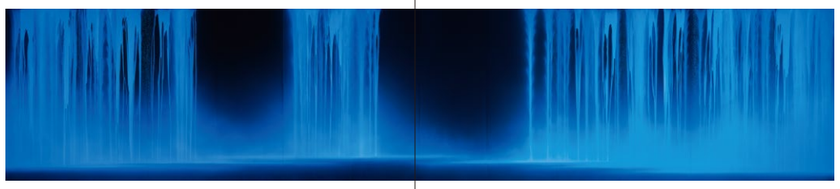
《フラットウォーター＃3》1993年 個人蔵

TOPIC 1　日本画×ブラックライト

千住は伝統的な画材の探究に留まらず、現代的な素材である蛍光塗料にも美しさを見出しました。現代の生活において、夜の占める比重が大きくなっていることに注目した千住は、都会の灯りやネオンといった現代の夜の光景とそこに生きる人間の心情表現を蛍光塗料に託しました。本展では蛍光塗料で描かれた作品にブラックライトを照射して展観します。日本画×ブラックライトという新感覚の作品をぜひご体感ください。

TOPIC 2　生まれ変わった展示室

本展は約9か月間の改修工事によって新装した展示室で開幕します。展示室を拡張し、天井高を引き上げたことで生まれた開放的な空間は、大型作品の魅力を最大限に引き出します。今回は《ウォーターフォール・オン・カラーズ》など、大型作品群を一堂に展示します。作品を前にすれば、滝が流れ落ちる轟音や繊細な飛沫の音が聴こえてくるかのよう。それは単なる鑑賞の域を超え、作品世界へ入り込むかつてない没入体験をもたらします。



《龍神Ⅱ》2015年 軽井沢千住博美術館蔵

《龍神Ⅰ》2015年 軽井沢千住博美術館蔵